

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

こもれびの家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

お年寄りに対して“熱い人”が立ち上がった。地域の高齢者が寄り集まる場をつくりたい。その思いが、認知症の人が安心して暮らせるグループホームに辿り着いていた里庄町で事業展開してきた社長と福祉の道を8年余り歩んできた若き熱血男がある日に出会ったことから始まる。社長の話しを聞いて、何と寛大な人かと二人は共感し、グループホームの立ち上げが急ピッチで進み、平成15年11月に1ユニットが開設、翌年4月に2ユニット目もスタートした。開設して間もなく、利用者は2、3人しか集まらない。そんな時、社長は経営面からの焦りもあり、職員の立場を思う管理者の間で大きな葛藤が起こり、大喧嘩になったそうだ。しかし、逆に2人の新しい人間関係が生まれ、“赤字にならなければよい”と社長から信頼を得るようになった。その時に『何事でも人間が大切』という信念が生まれ、利用者・職員・管理者・社長の人間関係がこのホームの大黒柱となり、今日の“こもれびの家”の精神を築く事ができた。

職員が楽しく過ごし、いつも笑顔で利用者に接しなければ、利用者が楽しい生活を送れる訳がないということから、職員同士の仲が良いこともこのホームの特長である。職員間でバドミントンをしたり、よく会合を持ってコミュニケーションを絶やささない。そして利用者にも「どうしたら一人ひとりが自分らしく、このホームで価値ある人生を送ってもらえるか」職員間でいつも意見交換したり、試行錯誤してケアサービスを提供している。

平成18年には、デイサービスと居宅介護支援センターを立ち上げ、地域での総合ケアを充実させてきた。そして今年の秋には小規模多機能ホームの開設準備中である。総括管理者というか、社長の片腕として事業展開の計画をして社長に提案し、銀行との交渉までするまでになった管理者が、今年から若い男性職員2人に両ユニットの管理者として任せるそうだ。そして「里庄町から出ることはない。この町で居宅中心の生活ができるように施設を組み合わせ地域密着のサービス提供をしていきたい。地域の人のニーズと働く人のニーズに応えられる事業にしなければならない」と話してくれた。彼の構想から、居宅デイサービス・小規模多機能ホーム・グループホーム・居宅介護支援事業等がうまく絡み合って、地域の人が循環しながら、どの人も楽しく里庄町の中で生活できる理想のオアシスが出来そうな気がした。そして、この事業展開によって職員の雇用も安定させたいと考えている。

夕食後は、利用者がリビングルームに残り楽しい団欒が続く。昼以上の盛り上がりが続く。職員に「もうそろそろ寝ましょう」と促されて、やっと部屋に戻っていった。さぞ皆、すぐに眠りについて、良い夢でも見るかなあと利用者の幸せを願った。

特に改善の余地があると思われる点

この法人の事業展開の内容を聞いて、個人経営の事業者としての構想とそれを支える体制の中で地域へ貢献していく姿勢に感動した。この町の中で、町民のために提供するサービスは、地域密着型サービス事業のモデルともなるだろう。今後の展開を注目していきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はないが、開設当初に代表者“管理者がホーム運営やサービス提供に関する基本的な考えを腹を割って話し合い、職員の含めた信頼関係を得ておくことが最も大切なことである。そして、信頼が、利用者が安心してゆったりとした毎日の生活を送れる今のグループホームとなっている。職員が仲良く仕事が出来、利用者が自分なりの生活を送れるホームであり、将来像も描かれている理想のホームである。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者一人ひとりが自分のやりたい事、自分のできる事を発揮してやり甲斐のある生活を送っている。また、利用者同士で楽しく話をする時間も自然につくって皆でコミュニケーションを活発にしている。利用者や職員は、“人間らしく生きる”と“自分らしく生きる”ことがうまく共存している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：改善事項として挙げていないが、仲の良い利用者が集団で生活するリビングルームの中にそっと話ができるコーナーを設けてみようかという構想もあると聞いた。十分に広い空間であるが、鉢植や杖立て程度で視界のはずれたコーナーも洒落ているかも知れない。</p> <p>2、全体的に見て…：2つのユニットのリビングルームは独立して存在しているが、リビングに面した広いウッドデッキは共通の場として屋外に広がっている。この空間を利用者はお互いに交流し合いながらホームの生活を楽しんでいる様子が手に取るようにわかった。 自分の部屋も、それぞれに落着ける場所を作っている。静かに本を読んだり、好きな事をする人も居る。又、自分の工作室のように得意のこをしている人も居て、楽しい我が家ができている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はないが、介護計画作成やケアの実行について、現在行っている事を一つひとつ見直して改善していこうとしている。ケアサービスは職員一人ひとりの心掛けや体験の積み重ねが大切で、これで良いという限界はないので、日頃から職員同士よく話し合っ一層の質の向上を期待する。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者が独創的な発想によって、ある物を工夫して道具を作ったり、パレーボールの道具を作って、職員と一緒にその道具を使って遊びに興じている。利用者も次から次へと参加し、笑いの渦に巻き込んでいる。 工作の得意な人は、折込広告を利用して袋を作っているが、腕を買われてホームで使う道具作りをしている。今日はお雛様の台作りに熱中していた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：地域との連携をより密接にして、町内会活動や災害時の協力関係をしっかりと構築していきたいと考えている。又、家族同士の交流も促進していけるよう家族会をつくることも考えている。これから地域密着した事業を更に展開していこうとする中で、現在のグループホームが中心になって改善していくことは大切なことだろうと考えるので、是非努力していった欲しい。</p> <p>2、全体的に見て…：グループホームの開設以来、ホーム全体を統括してきたホーム長が、グループホームの管理者を2人の若い男性職員に委ねる事にした。そして、経験豊かな女性職員がリーダーとなり、両輪となってホームの管理体制をつくらうとしている。仲の良い職員同士がホームを支え、利用者同士がコミュニケーション豊かな生活を送れる“こもれびの家5年目”を新たな気持ちで築いていくであろう。</p>		